鶴翔

第5号

発行　東京鶴翔同窓会
発行所　東京都千代田区内神田
2－16－9（〒101）
荘内銀行東京支店内
TEL　03-256-8911
責任者　梅津正吉
印刷　日本証券新聞社

佐藤会長逝去される

総会を待たずに去る2月26日

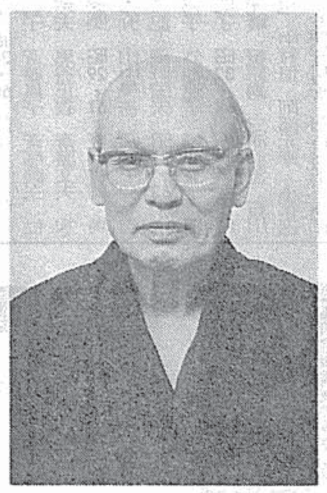
東京鶴翔同窓会長佐藤貫一氏は去る二月二十六日午前二時半、肺炎のため入院中の帝京大学付属病院で逝去されました。享年七十歳。

昨年の第七回総会で第二代会長に就任された氏は、同窓会の集いは楽しいものにしたい、とみずからアトラクション企画を指示されるほど会の運営に意欲的な抱負をもっておられました。

副会長は多い方がよい、女性を入れなさい、この場（昨年総会会場）で副会長人事を発表しなさいと矢つぎばやに指示されたこともその現れでありましょう。

嗚呼、その総会を目前に控え、佐藤貫一会長は既に幽明境を異にしておられるとは――。

編集部では、副会長服部泰雄氏に追悼文をお願いしました。ここにその全文を掲載して故佐藤会長のご冥福をお祈り致します。合掌



追悼

服部泰雄

創立以来永らく東京の鶴翔同窓会長をつとめられた田倉八郎さんの後を継ぎ、昨年後任者となられた刀剣鑑定家・文学博士佐藤貫一先生が、入院療養中二月二十六日急逝されましたことは翌日の各紙により報道され、全国の刀剣界及び関係者を驚かしめました。また私ども鶴翔同窓会員としても惜しむべき会長を失い、深く哀悼の意を捧げる次第であります。

佐藤貫一先生は、その識見と人物において郷土鶴岡の誇りとするに足る人物であり、いまさら茲にくどくど申しあげるまでもないことであり、永年に亘る刀剣に関する諸般の研究と努力により、現代の混とんたる世相の中で、古武士のごとき無私奉仕の魂のひらめきがあったのであります。

本年六月には、鶴翔同窓会東京大会を盛大に開催することを楽しみにして、ご家人にも話をして期待しておられたご様子であります

七〇才の年令は、当世未だ前途ありといわれる時代にも拘らず他界されたことは、返す返すも惜しいことであり、未だ寒山先生の魂が地下に燃ゆるごとく感ずるのであります。同窓会の今後の発展を希っておられることでしょう。

茲に紙面を借り、寒山会長の追悼の言葉と致します。

梅花散り寛山大師の霊燃ゆる

相良守峯氏を後任会長に

副会長・常任幹事一同で推薦

東京鶴翔同窓会役員会は佐藤貫一会長死去に伴う後任会長に相良守峯氏（大2年22回）を推薦することに決定しました。

去る四月十九日、副会長・常任幹事一同の要望に基づき、梅津副会長と中村信雄氏は相良守峯氏にお会いして会長就任をお願いしましたところ、同氏のご快諾を得ました。

今総会で承認後、正式決定されます。

東京鶴翔同窓会 新役員決まる

昨年九月十七日の第七回総会で、田倉八郎氏が会長を引退され、新会長に佐藤貫一氏（大14年33回）が選出、就任されました。

同総会で佐藤会長から委嘱された新副会長五名が紹介されました新役員に就任された各氏は次の通りです。

副会長＝服部泰雄（大15・34）梅津正吉（大15・34）成沢寿（昭5・38）板垣智枝子（昭28・60）桜井文子（昭31・63）の各氏。

常任幹事＝阿宗保次郎（昭10・43）中村信雄（昭18・51）松本直明（昭27・59）斉藤具子（昭28・60）山中具吉（昭29・61）加藤次郎（昭30・62）加藤義彦（昭32・64）地主忠夫（昭38・70）太田良弘（昭38・70）若木茂（昭43・75）白井重彦（昭46・78）の各氏。

会計監事＝伊藤貞治（昭6・39）斎藤實（昭20・53相当）の両氏。

第八回東京鶴翔同窓会（鶴翔如松東京同窓会）のお知らせ

一、日時　昭和五三年六月二五日（日曜日）
一、場所　ホテル・グランドパレス
　千代田区飯田橋一―一―一
　電話　二六四―一一一一
一、当日会費　五千円
一、年度会費　五百円
受付　十一時三十分
開会　十二時三十分　閉会　十五時

出欠ご回答のはがきは折り返しお願いします。

年度会費納入のお願い

当日ご欠席の方は、同封の振替用紙で五三年度会費として五百円お納め願います。

昭和52年度東京鶴翔同窓会収支決算書

（昭和52年4月1日～昭和53年3月31日）

収入の部 科目	摘要	支出の部 科目	摘要
総会費 544,500	120名（外招待者8名）	総会費 529,280	東天紅 489,580 花山 39,700
年会費 128,990	送金分 128,990	会議費 35,020	
〃 55,000	総会当日分 110名	事務費 226,190	印刷費 144,050 通信費 82,140
名簿代 72,200		支払手数料 5,040	
雑収入 213,078	寄付 8,000 広告 139,800 お祝 60,000 利息 2,678 その他 2,600	交際費 18,200	お祝金（如松会） 10,000 暑中見舞（荘銀） 8,200
		慶弔費 30,790	
		その他 16,380	写真代 13,700 車代 2,680
前期繰越 111,175		預金 264,043	荘銀普通預金残
		（名簿代未払120,000円） （総額 320,000円）	
合計 1,124,943		合計 1,124,943	

昭和53年4月1日
監査の結果上記の通り間違いありません。
会計監査　伊藤貞治　印
斎藤　実　印

新旧役員ご挨拶

感謝と祈念

前会長　田倉八郎

東京鶴翔同窓会も、鶴岡南高校東京同窓会と称していた頃も含めて、総会を重ねること七回になりましたが、今年は北高校の如松会と合同でやるそうですが、是非とも成功させたいもとの存じます。

私は東京同窓会創立以来昨年まで、会長の職を穢させていただきまして、二代目会長には佐藤貫一（寒山）さんという立派な方にお願いし、私は会長の職を退いたばかりでしたが、世の中のことは一寸先が闇のようなもので、佐藤さんは病魔の冒すところとなり、総会を開くチャンスもなくて、去る二月二十六日他界されました（この稿を書いている時点では、どなたが三代目の会長に就かれるかはきいておりません）。まことに残念なことで、謹んでご冥福を祈ります。

私の会長在任中のことを顧みると、私は全くの木偶の坊で、諸事万端、梅津正吉さんを始めとして壮、青年諸君の企画、執行におまかせしていました（荘内銀行東京支店の方がたに陰に陽にお世話になったことは申すまでもありません）。また近年、優秀なる女性の卒業生が、年毎にふえているのでそれらの方がたのご助力にも、いつも感謝しておりました。

それから、郷里鶴岡の同窓会本部の歴代の会長や校長さん達のバックアップが、われわれを激励してくださり、いかばかり、力添えになったことでしょう。

六月までには、新会長もきまることでしょうし、如松会の方とも連絡を密にして、益ます会が隆昌になりますよう祈念いたします。

先輩後輩相集う歓喜の会に

服部泰雄

いまさらながら年月の流れは早いものです。私どもの故郷の東京鶴翔同窓会が創立されて毎年一回の会を催されてきましたが、本年は第八回目になります。

昨年の同窓会の席上、はからずも副会長のご指命を受けて、他に適任者もおられるなかでどうかと思いましたが、副会長は五名もおりますから、微力ながらお受けした次第です。

鶴翔同窓会は、私どもが懐しい故郷を偲び、しかも先輩や後輩の方が相集い昔を偲びながらの歓喜の会であり今後の発展を期待します。

八、九年前帰郷の節、前本部会長の平田貢さんにお会いしたとき東京に会の支部結成の御念願を知り、当時少しばかりご協力申しました。その後田倉八郎さんを会長として年毎に発展して来まして、昨年佐藤貫一さんが後任会長となられました次第ですが、何はさておき日本一の日本刀鑑定家として知られた同氏が去る二月下旬急逝されましたことは、全く同窓会としても一大打撃であり大いなる悲しみでありますことを一筆付け加えさしていただきます。

右ご挨拶の言葉といたします。

会創立の想い出と共に

梅津正吉

東京には荘内人でつくっている会合がいくつかあり、学校関係でいえば鶴高女（北高）や酒中（酒田東高）には既に同窓会の東京支部が結成されていました。

これは現在の東京鶴翔同窓会が生まれる前のことです。当時、私は、荘内では最も古い歴史と、数多くの卒業生をもつ中学（南高）の東京同窓会が未だに出来ていないのはどうした訳だろうと不思議に思っておりました。

ところが母校の同窓会の前会長平田貢氏を始め本部のみなさんが東京同窓会の発会を熱望しておられる由を伝聞し、これの協力を求められましたので、時期到来とばかり微力ながら活動を開始した次第です。

まず先輩各位のご意向を打診しましたところ、異論がないばかりか大いに激励され、さらに後進の身を思う切々たる心情に打たれました。

そこで、服部泰雄、中村信雄両氏を始め若い同窓の人びとと共に荘内銀行東京支店の会議室で会則をつくり、会場を交渉し、また会長、副会長就任のご内諾を得まして、ついに昭和四五年十月、第一回の設立総会を開催したのですが、出席者は鶴岡の本部から駆けつけられた来賓を迎えて、二百名を越す盛況となったのです。

その後は田倉会長の熱誠なるご指導と役員幹事諸氏の献身的なご協力のもとに、総会を重ね、会報名簿を発行し、会員各位のご期待に副いたいと念願しつつ、早くも七年を経過してしまいました。

先般田倉会長ご引退とともに、私も既に老齢年金の年になりましたので、辞任したいと思っておりましたところ、新会長佐藤貫一氏から副会長の指名を受けて躊躇したのですが、枯木も山のにぎわいの意味だからと思ってお受けしました。ところが本年度の総会を前にして佐藤会長は突如として他界されました。

寝耳に水とはこのことでした。一同の驚きと落胆は言語に絶するものでした。しかし佐藤会長のみ霊は生きておりました。こんどの総会も、そしてその次もその次も必ず盛会に赴き、本会はますます発展するに違いありません。

会長佐藤先生の本年の年賀状をご紹介しまして、同氏のご冥福を祈る次第です。

雖重馬齢意氣
猶少年
昭和五十年元旦
東京都練馬区桜台二―一―二〇
寒山　佐藤貫一

「のんき子」の故に就任

成沢寿

昨年の九月十七日、東京鶴翔同窓会において仲間から強制的に副会長の指名を受け、勿論その任でないことは百も承知でしたが、その時「のんき子」の故をもってとの推薦の言葉があり一方的に決定されてしまいました（私事で恐縮ですが大正十四年より昭和十二年まで数学教師をした〝のんきな父さん〟こと成沢基は私の父であり荘内中学の十回生。昭和十八年二月浦和の寓居にて死去、享年六四才）。

この総会で会長、副会長の役員は交代となり、新会長に佐藤貫一先生が就任、その下に私ども五人の副会長も決定し、昭和五三年度では空前の試みとして如松会と合同総会の計画が提案、採択されました。ところが突然二月二十六日、佐藤会長の訃報に接し私どもは目下、暗夜に灯を失った心境であります。

昭和五二年度総会の出席者は約百三十人で、その出席率は11%。勿論同窓会はクラス会と違って年令差があり興味がないとの批判もありましょうが、短時間の中に先輩後輩が歓談できるなんて本当に楽しいことであります。私も沢山の会にご厄介になっておりますが全く人を集める世話人のご苦労には頭がさがります。

世話人に対する感謝の意を表わすためにも、エチケットとして出欠の有無に関係なく返事だけはきっと出すようにしたいものです。

来る六月の鶴翔、如松の合同総会が有意義に開催できますことを心から祈念して私の副会長就任のご挨拶といたします。

若い世代のご参加を願って

桜井文子

歴史の長い母校の同窓会というと、参加者はすでに功成り名を遂げた錚々たる先輩ばかりではないか、というイメージがあって、敬遠しておられる方もまだまだいらっしゃるようですので、私のように名もなく貧しく、若い（この中では！）ものが副会長の一人ということになれば、ぐっとイメージダウンされて、もっと多くの方がたが参加してくださるようになるかも知れない――こう思ってお引き受けしました。

大好きな鶴翔同窓会のために一生懸命雑用をさせていただきます。会員のみなさん、とくに女性のみなさァん、年一回の総会に奮ってご参加くださァい！

七月一日 母校創立九十周年

講演と音楽会の記念行事

同窓会総会と懇親会

来る七月一日、母校は創立九十周年を迎えますが、九十年の伝統にふさわしく、七月一、二日の両日にわたって記念行事と同窓会総会が行われます。

第一日目の一日は、午後一時から記念式典、記念講演（佐藤功先生）、同窓会総会、大懇親会が開かれます。

第二日目は鶴岡市文化会館で午後六時半から記念音楽会（独唱・真島美弥さん）が行われます。

記念講演の講師佐藤功先生は、母校第四回（明治二九年）卒の故佐藤丑次郎先生のご三男で、現在上智大学教授・法学博士、憲法学の権威であります。

また独唱される真島美弥さんは母校第六四回（昭和三二年）卒。国立音楽大学卒後渡欧され、昭和四六年ベルリン国立音楽大学を卒業、現在西独デュッセルドルフ歌劇場専属のソプラノ歌手として名声を博している方です。

第七回東京鶴翔同窓会 出席者氏名

招待

本部会長　丸谷八郎　同事務局長　佐藤義三郎　母校々長　堀口昌太　同校教諭　門野文雄　同　大内治男　如松会　堀部貞子　同　水口とし

会員

明41・16　佐藤文蔵　大4・23　田倉八郎　大7・26　村山孝治　大10・29　本間俊策　大12・31　白旗信　大14・33　佐藤貫一　三矢造　江口文雄　遠藤国輔　広瀬定治　中川重男　石井直治郎　大15・34　梅津正吉　服部泰雄　田島太郎　昭2・35　堀朝之助　兼子良三、石沢四郎　清水清　柴田勇吉　阡陌茂　昭3・36　本山勝次郎　昭4・37　真島恭雄　昭5・38　大井正　成沢壽　村岡成人　小関元常　昭6・39　伊藤貞治　水口武三郎　佐藤三郎　板垣正作　昭7・40　船戸春夫　伊藤眞次　斎藤茂雄　昭8・41　今田元氏　野崎季義　昭9・42　藤原宗雄　昭10・43　阿宗保次郎　三井広弥　富樫常夫　昭12・45　坂本春吉　昭13・46　久米井芳郎　昭14・47　鈴木重臣　薬谷清　昭15・48　渡会春雄　山科勝男　昭17・50・大沼栄造　富樫昇　昭18・51　高木有　斎藤正　渡部士郎　中村信雄　旅河正美　船見繁雄　久米井安雄　須藤卓雄　昭19・52　菅原隆輔　大屋恭士　昭20・53　平田正　皆川健行　山本昌美　成田辰美　寒河江辰己　昭21・54　清水稔　佐藤英二　佐藤正英　中里欣一　田中更士　昭26・58　佐藤誠　昭27・59　松本直明　佐藤清子　昭28・60　鈴木清　板垣智枝子　斎藤具子　斎藤諦三　仁藤輝夫　黒谷正義　斎藤文夫　水原繁美　昭29・61　佐藤啓輔　鳥海秀介　山中具吉　昭30・62　佐藤文記　磯野国夫　昭31・63　鎌田喜子　外池運子　桜井文子　磯見明子　昭32・64　小関捷吾　鳥海元晴　笹原鋼　三浦計治　石川義也　中村恒　阿部元幸　小花吉彦　友沢万里子　関谷路子　ハビエル・和子　斎藤暉　斎藤憲昭　加藤義彦　高山弘　渡部修三　昭33・65　阿部文治　大井浩司　昭34・66　三矢正士　昭36・68　渡部洋　長谷川満記　伊藤海記男　井上吏雄　昭37・69　鹿内竣一　昭38・70　中村浩　地主忠夫　太田良弘　昭41・73　荒田盈一　昭43・75　若木茂　昭46・78　白井重彦

写真で見る昨年の総会・懇親会

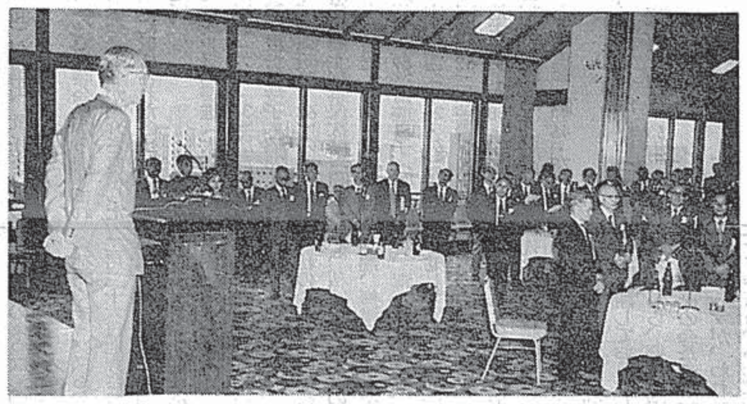
開会の辞を述べる板垣智枝子さん

会長として第七回総会の挨拶をする田倉さん

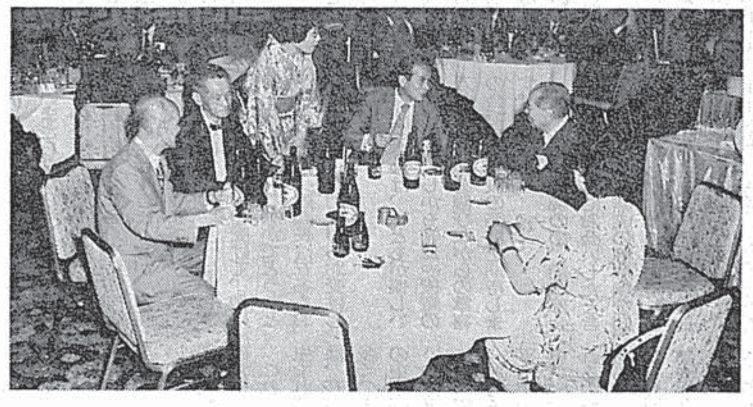
新会長に就任の挨拶をする佐藤貫一さん

如松会を代表して祝辞を述べる水口としさん

乾杯の音頭をとる佐藤義三郎先生
その後は司会の斎藤具子さん

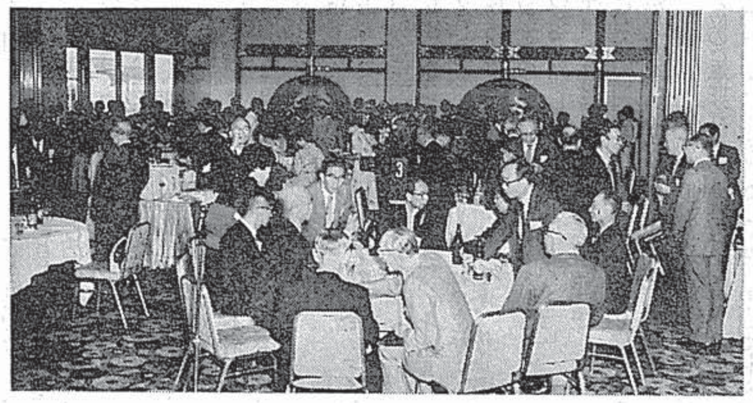


祝辞を述べる本部会長の丸谷さんと聞き入る会員



母校の堀口校長と話し込む梅津さん

第7回東京鶴翔同窓会



第七回総会後の懇親会は、鶴岡からお越しいただいた本部事務局長・佐藤義三郎先生の乾杯の音頭で始まりました。

卒業年次の近い出席者十名ほどがひとつのテーブルを囲む方式でその輪がいくつあったでしょうか。

宴たけなわともなれば、ご覧ください。写真のようになるのは、いつでも、どこでも同じですね。

編集だより

この号の編集は悲しくも辛い作業でした。トップに新会長・佐藤貫一（寒山）先生の訃報を載せなければならなかったとは▼先人が逝き、新しい生命が生れ育つ。これが人の世の理だとしても矢張り悲しみは残ります▼昨年の総会終了後、例によって寒山先生から数人の先輩と共に編集子も二次会のお供を命じられました▼会場の東天紅からさ程遠くない上野駅前は先生お気に入りの鄙びた店。そこの女将が先生に用意した葡萄汁を断り、私達と同じ日本酒を飲むといわれるのです▼そこで先生の前に改めて用意されたのが、白湯の入った土瓶とグイ呑みの盃▼この盃にご自分で白湯を七分ぐらい注ぎ、それからお酒を二分ほど▼ケモサナグトモ、イイモンデスカとお尋ねしたところ編集子にも作ってくださいました。尤も白湯と酒の割合は違ったようでしたが▼小一時間ぐらい私達と談笑されて先生は帰られました。店に行くときのタクシー代、店での勘定を私達から受け取ることを先生は頑としてお聞き入れにはなりませんでした▼故佐藤会長は総会場やその後の役員慰労会の席上で、次期総会のアトラクション企画をポンポン出されました。「同窓会は楽しくなければ」「会報は年二回発行しなさい」ともいわれました▼総会を目前に控え、今その時どきの会長の温顔を思い出します▼親分肌で豪放、しかも細やかな気配りを常とされた会長は、ちゃんと会員へ課題を遺されたと思うのです▼九十年の輝かしい伝統ある母校の東京同窓会の会報は、もう少し、いやもっともっと充実させなければなりますまい▼故佐藤会長はそれを言い遺されたと思えてなりません▼若き世代の会員のみなさん無料奉仕の編集作業に参加してください▼会員のみなさん、近況、雑報、この「鶴翔」に玉稿をお寄せください▼広告媒体としてもご注目いただき、広告出稿をお願いします▼東京鶴翔同窓会を年ねん盛んにすることこそ、いまは亡き佐藤寒山会長への何よりの手向けと思うのです。　（ま）